

## 2005年度目標に対する2003年度の実績は？

JR東日本では、2005年度を目標年度とする「環境目標」を掲げています。単年度ごとに定量的・定性的に実績を把握し、課題のある項目については、その原因を探ることで次年度の改善に活かしています。

環境保全活動の分類	主な活動内容	2005年度目標		2002年度実績	2003年度実績 ( )内は実数	評価	参照ページ
		基準値(1990年度)	目標値				
沿線環境 保全活動	新幹線・在来線の騒音対策 (防音壁、ロングレール化など) 川崎火力発電所からの環境汚染物質削減 有機溶剤等の適正管理 など	東北・上越新幹線の「住宅立地地域」 騒音対策75dB以下	-	100% (2002年度達成目標)	100%	100%	37-39 ページ
		自営火力発電所NOx排出量	994t	60%削減 (402t)	60%削減 (399t)	66%削減 (341t)	
地球環境 保全活動	省エネルギー車両の導入 駅やオフィスビルの省エネルギー化 (コジェネレーションの導入) インターモーダル(パーク&ライド、 レール&レンタカーなど)の推進 など	事業活動に伴うCO <sub>2</sub> 総排出量	276万t-CO <sub>2</sub>	20%削減 (220万t-CO <sub>2</sub> )	16%削減 (232万t-CO <sub>2</sub> )	20%削減 (220万t-CO <sub>2</sub> )	30-33,37 ページ
		自営火力発電所 単位発電量あたりCO <sub>2</sub> 排出量	726g-CO <sub>2</sub> /kWh	30%削減 (508g-CO <sub>2</sub> /kWh)	29%削減 (519g-CO <sub>2</sub> /kWh)	31%削減 (504g-CO <sub>2</sub> /kWh)	
		省エネルギー車両比率	-	80%	68%	72%	
		単位輸送量あたり 列車運転用消費エネルギー	20.6MJ/車キロ	15%削減 (17.5MJ/車キロ)	10%削減 (18.6MJ/車キロ)	11%削減 (18.3MJ/車キロ)	
資源循環活動	駅・列車ゴミの削減、リサイクル (分別回収、リサイクルセンターの整備など) 切符のリサイクル 工場、工事廃棄物のリサイクル 駅で回収した新聞を再生した リサイクルコピー用紙の導入 など	駅・列車ゴミのリサイクル率	-	40%	37%	39%	34-36 ページ
		車両工場廃棄物のリサイクル率	-	75%	74%	81%	
		工事廃棄物のリサイクル率	-	85%	84%	92%	
		事務用紙の再生紙利用率	-	100%	98%	99%	
環境マネジメント	本社、支社エコロジー推進委員会による 環境マネジメント 郡山総合車両センターでの ISO14001認証取得 鉄道沿線からの森づくり 社会環境報告書の発行、環境広告 など	毎年具体的な環境保護活動	-	-	13カ所 1万本植樹 3,500人参加	15カ所 1.2万本植樹 2,400人参加	24-27 40-41 ページ
環境研究開発	次世代通勤電車「ACTレイン」の開発 ハイブリッド鉄道車両「NETレイン」の開発 騒音低減技術開発 など						9ページ など
社会活動	自治体などと協力した環境保全活動 など						40-41 ページ



エコロジー推進委員会副委員長  
代表取締役副社長 清野 智

2003年度は、車両工場と施設工場の廃棄物のリサイクル率など、新たに4項目について2005年度目標を達成することができました。また、駅・列車ゴミのリサイクル率や省エネルギー車両比率などについても、引き続き改善しました。こうした達成状況を踏まえ、環境目標については抜本的な見直しを行い、今年度中に新しい目標を設定することとします。なお、事業活動に伴うCO<sub>2</sub>総排出量については、220万トンとなり、前年度と比較して大幅な削減となっています。しかし、これは各種取り組みの成果のほか、自営水力発電所で使用する河川水量の増加により発電量が増えたなどの外的要因の影響も大きかったためと考えています。したがって、この実績に安住することなく、引き続きCO<sub>2</sub>総排出量削減のための各種施策を積極的に進めます。

### 2005年度目標達成に向けた進捗度

- .....良好
- .....順調
- .....やや遅れ